

令和4年度 応用理学部門 技術士合格体験記

川崎地質株式会社
窪島 光志 様



“なりふり構わず、今年必ず合格したい、という切実な思い”

◎はじめに

本稿では、私が技術士二次試験に合格できた要因を述べます。更に、その主要因である「周囲から如何に協力を得たか」を述べます。

◎私が技術士二次試験に合格できた要因

標記要因を、筆記・口頭試験に分けて述べます。

筆記試験に合格した要因は、「複数部門の技術士かつ、近年の出題傾向を熟知された方に、アドバイスを頂いたこと」でした。

私は、受験者の中でも、多くの対策セミナーや書籍へお金を投資した方だと思えます。しかし、一番効果のあったアドバイスは、社内に居る身近な上司からのものでした。その内容は、「論文の全体構成が一貫していない（論理に飛躍がある）」、「論文の主旨が曖昧（何を言いたいのか分からない）」という二点でした。

当たり前のことですが、上記の点を意識することで、必須科目Ⅰの評価がB→Aへ向上し、試験にパスすることができました。

口頭試験に合格した要因は、模擬面接を10数回受講し、口頭試験に「慣れた」ことにありました。また、東京技術士会の講師の方をはじめ、親身に私の「業務内容の詳細」のプレゼンについて、アド

バイスをしてくれた方がいたことも大きな要因でした。また、妻にも試験一週間前から、試験の模擬面接官になってもらい、協力を頂きました。

口頭試験対策中、私は典型的な「迷子」になりました。しかしながら、多くの模擬面接のお陰で、何とか「自分の解答」を見つけ出し、戻ってくることができました。結果、本番は基本的な質疑に終始し、無難に終わることができました。

◎如何に周囲からの協力を得たか

これも当たり前ですが、自分が上のレベルへ行くためには、自分の力量だけでは困難な場合が多くあります。しかし、努力していない人を、周囲の人は助けません。更に、試験対策は、仕事ではないため、他者の協力を仰ぐためには、自己努力が大前提になると考えます。

具体的な努力の内容は、「キーワード集の作成」や、「過去問題の分析」、「関係白書の熟読」、「予想問題の作成と解答論文の作成」などがあります。その努力を実施した上で、なりふり構わず、今年必ず合格したい、という切実な思いで、上のレベルにいる人の助言を頂きたい旨、相談することが、結局は、最重要項目であったと感じます。手を差し伸べてくれる人は必ず居ます。そのような方を、必死な姿勢で如何に巻き込むか、が精神的な合否のラインを決めるものになります。